

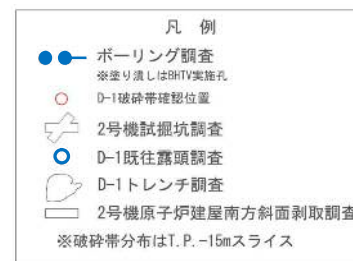
#### 4.2 2号炉原子炉建屋南方の調査

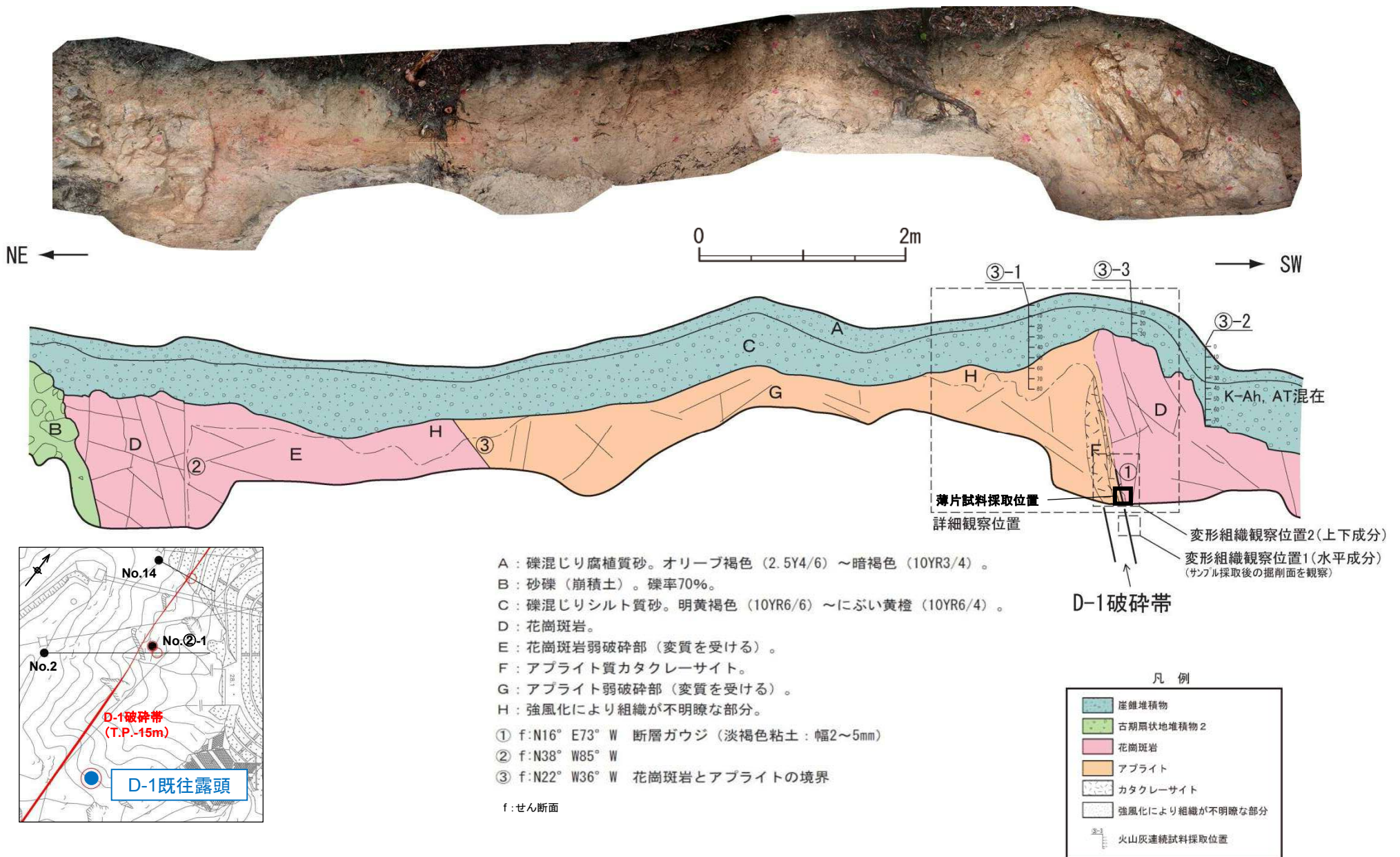
2号炉原子炉建屋南方のD-1破碎帯の分布を明らかにし、上載地層法に基づく活動性評価を行うため、ボーリング調査（No.14孔，No.②-1孔，No.2孔）及びD-1既往露頭調査を実施した。【資料4.2-1】

D-1既往露頭については、第四系を層相により上位からA～C層に、基盤岩を岩種や風化の程度によりD～Hに区分した。

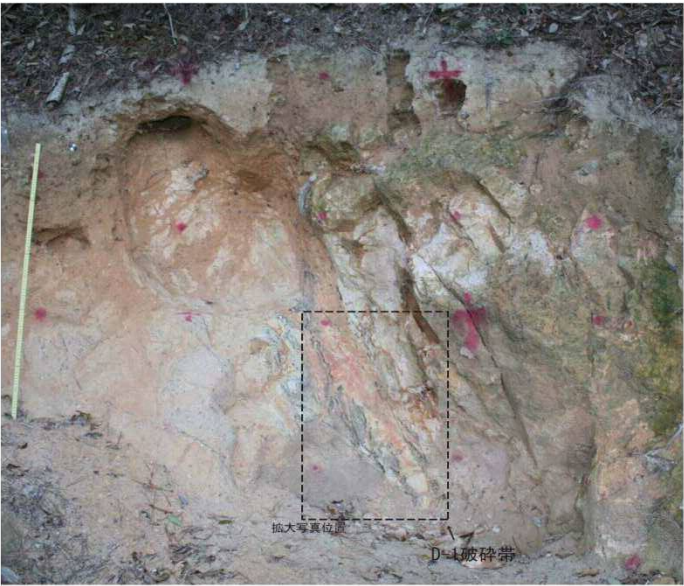
D-1破碎帯は、アプライト質カタクレサイト及び淡褐色の色調を呈する断層ガウジからなり、NNE-SSW方向で高角度西傾斜である。詳細観察結果によれば、破碎帯は基盤岩上部の風化により、ガウジ部の組織が不明瞭となるが、C層に変位・変形を与えていない。【資料4.2-2,3】

テフラ分析の結果、C層には、AT（約2.9～2.6万年前、第四紀後期更新世最末期）並びにK-Ah（約7,300年前、第四紀完新世；町田他(2003)）が混在して含まれている。【資料4.2-4】

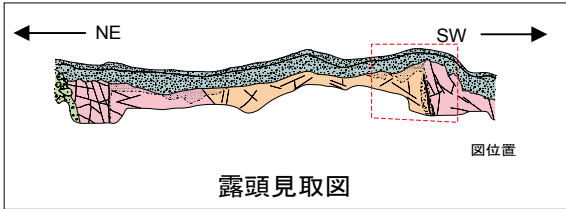








割れ目に沿って風化が進んでいる



- ・破碎帯はK-Ah(約7,300年前)以降に堆積した地層に変位・変形を与えていない。
- ・破碎帯は基盤岩上部の風化により、ガウジ部の組織が不明瞭となる。

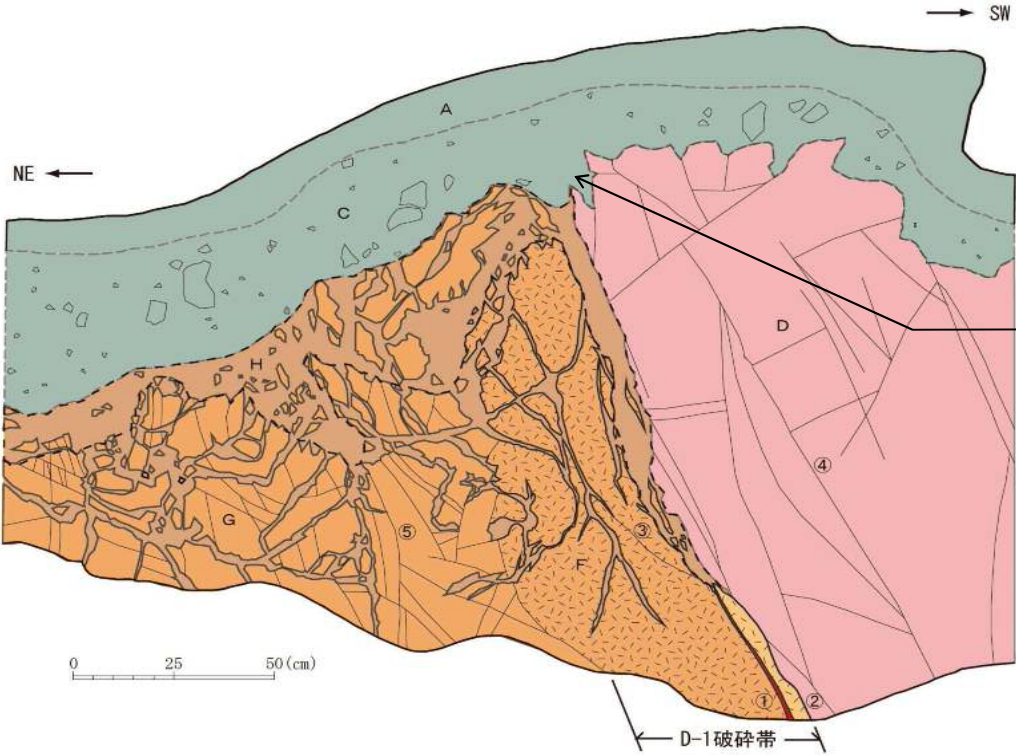
凡 例

- 崖錐堆積物
- アブライト
- 花崗斑岩
- カタクレーサイト
- 強風化により組織が不明瞭な部分

- A : 腐植質シルト質砂 黄褐色 (10YR5/2)  
C : 礫混じりシルト質砂 にぶい黄橙 (10YR6/4) 。礫率10%  
D : 花崗斑岩 浅黄橙色 (7.5YR8/3)  
F : アブライト質カタクレーサイト  
G : アブライト 風化し、軟質。浅黄橙色 (10YR8/4)  
H : アブライト(強風化部) 砂質シルト状。浅黄橙色 (10YR8/3) ~ 橙色 (7.5YR7/6)

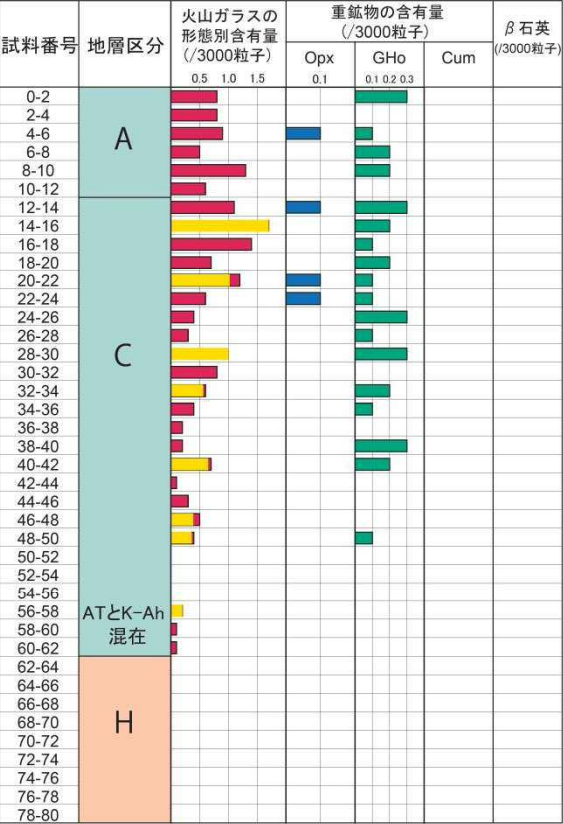
- ① f: N28° E67° W 断層ガウジ (淡褐色粘土: 幅2~5mm)  
② f: N26° E66° W 断層ガウジ (淡褐色粘土: 幅0~1mm)  
③ j: N6° W63° W マンガン付着  
④ j: N27° E66° W  
⑤ j: N28° W65° W マンガン付着

j: 節理  
f: せん断面



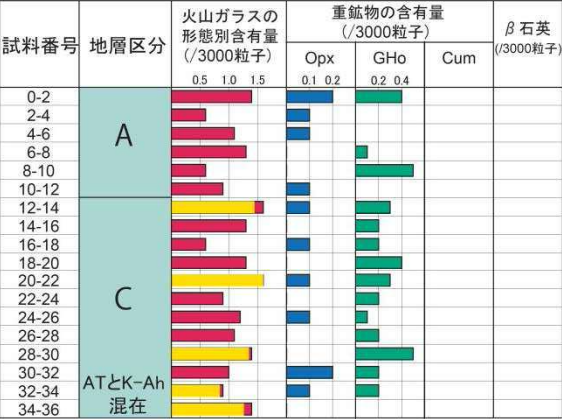
一部は浸食により失われ、上載層が入り込んでいる。

地点：③-1

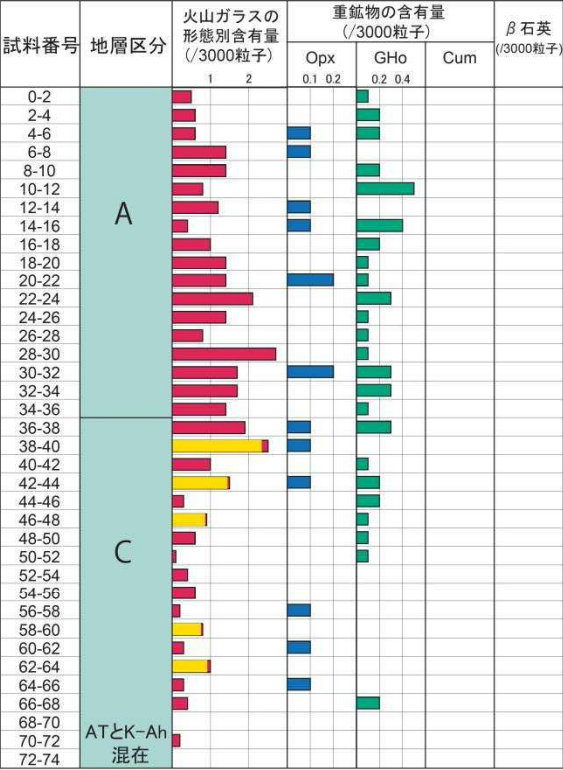


K-Ah  
AT

地点：③-3



地点：③-2



C層には、AT（約2.9～2.6万年前）及び K-Ah（約7,300年前）が混在して含まれている。